

熊本県の観光・レジャーに関するアンケート(2021年12月調査)

「熊本県の観光・レジャーに関するアンケート(2021年12月調査)」を実施した結果を公表いたします。(発送数:279、回収数:108、回収率:38.7%、回収期間:2021年12月17日～2022年1月7日)本アンケートは、県内の観光・レジャーの動向をいち早く捉えるために実施しております。

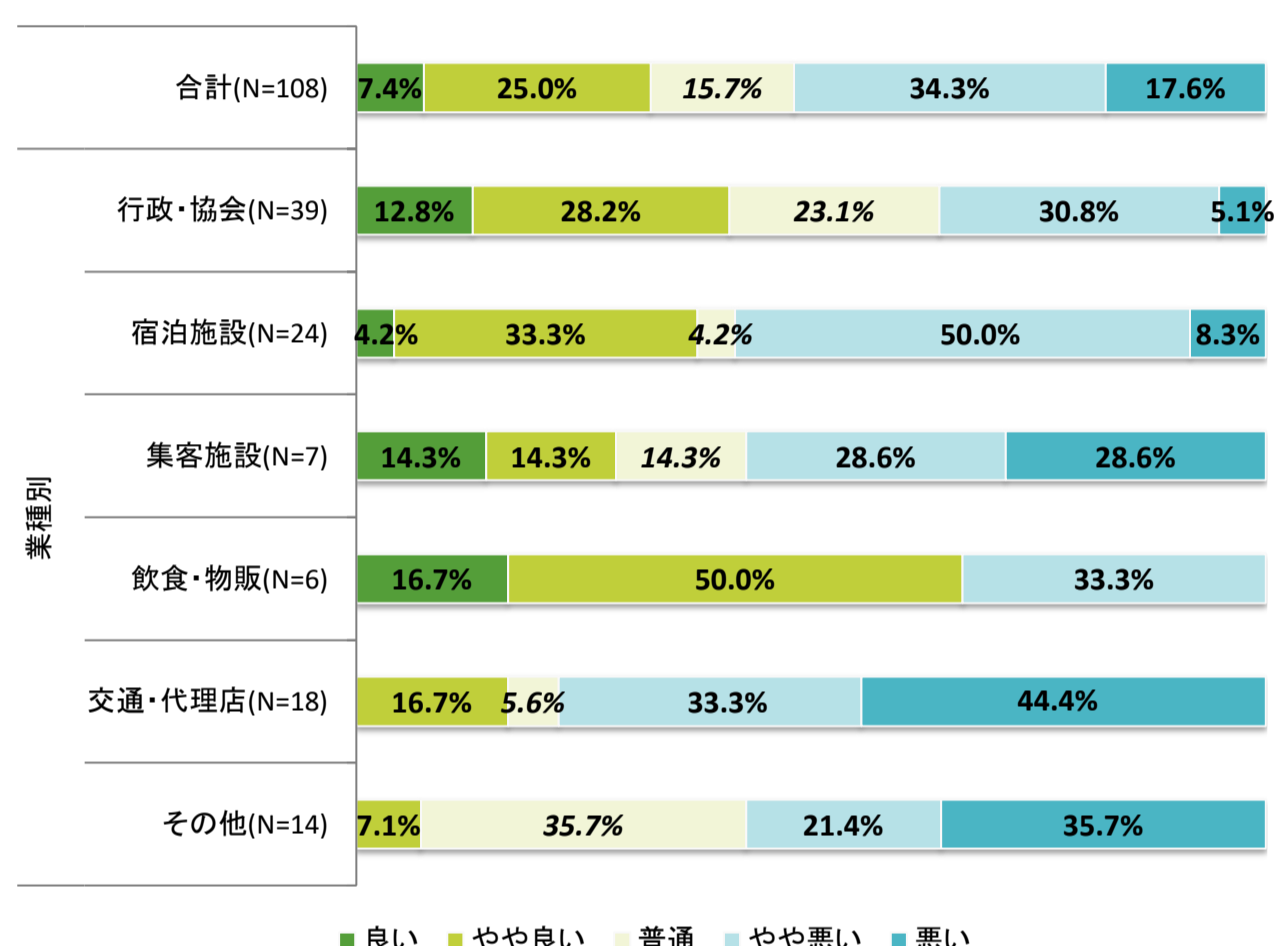
1. 熊本県観光DI まとめ

	現状判断DI (10月～12月)	見通しDI (1月～3月)
合計(N=108)	42.6	47.7
行政・協会(N=39)	53.2	46.8
宿泊施設(N=24)	43.8	46.9
集客施設(N=7)	39.3	46.4
飲食・物販(N=6)	62.5	56.3
交通・代理店(N=18)	23.6	48.6
その他(N=14)	28.6	44.6

10～12月の熊本県の現状判断DIは42.6となった。まん延防止等重点措置などが解除され、前期(12.0)に比べ景況感を「良い」もしくは「やや良い」とした事業者等が増加した。特に、県内・近隣地域からの個人旅行、教育旅行などが回復傾向にあり、飲食・物販、行政・協会ではDIが目安となる50を上回った。しかし、インバウンド含む遠方からの旅行や団体旅行は回復には程遠く交通・代理店、集客施設ではDIが50を大幅に下回るなど、業種により回復の濃淡があらわれている。

また、見通しDIは47.7となった。「良くなる」「やや良くなる」のコメントをみると、新型コロナウイルスの収束やGo Toキャンペーンなど各種観光キャンペーンに期待しているという理由が多数を占めた。ただ、足元ではオミクロン株によって新型コロナウイルスの感染が急激に再拡大しており、キャンペーンの延期・中止、まん延防止等重点措置等の行動規制による景況感の悪化が懸念される。

2. 10～12月期の動向、景況感【現状判断DI】

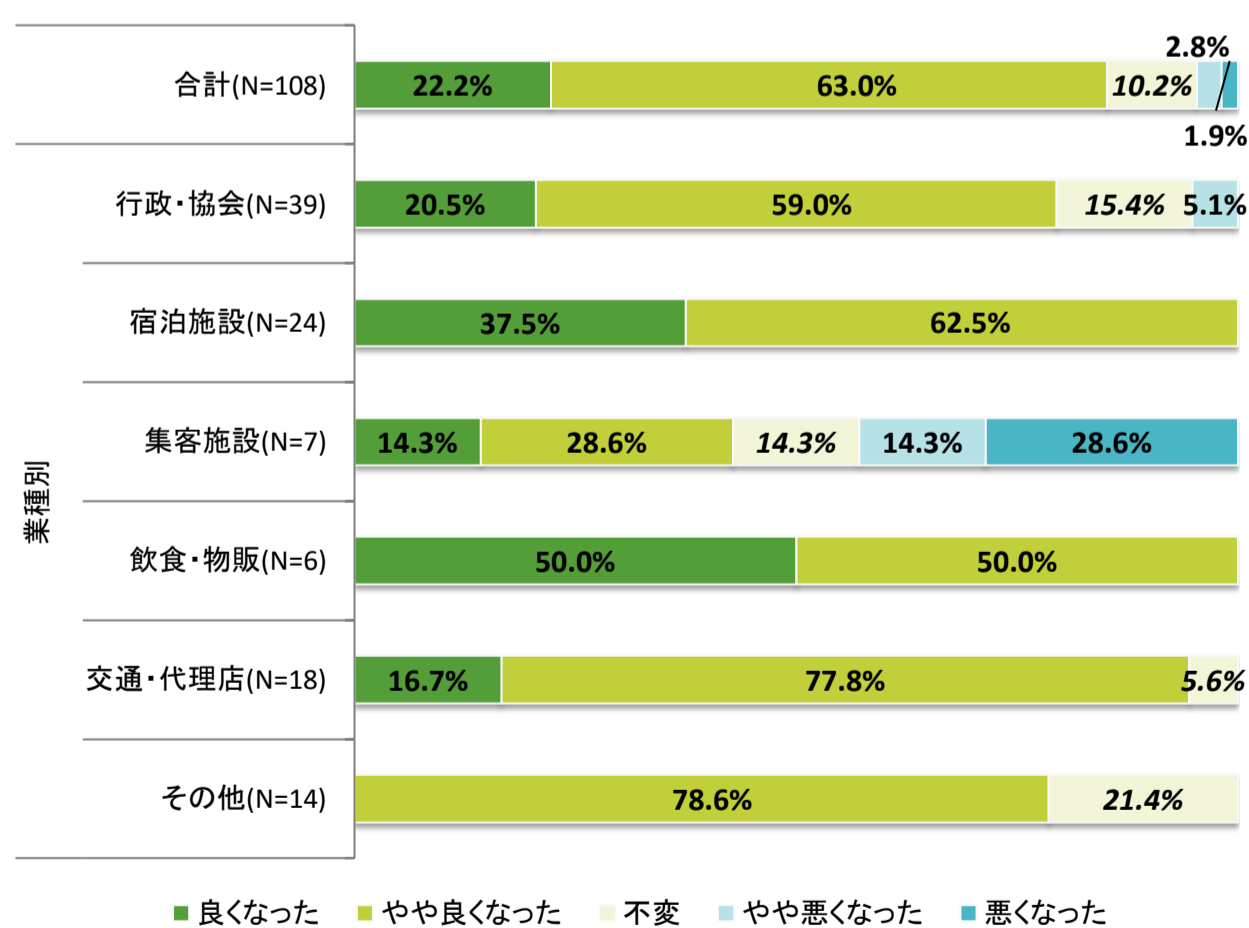


10～12月の景況感は、全体では「良い」「やや良い」の合計が32.4%、「悪い」「やや悪い」は51.9%となった。

【コメントの抜粋】

- 良い
10月からのまん延防止解除に併せ、熊本県のキャンペーン等の実施により宿泊客の増加(宿泊施設)
- やや良い
緊急事態宣言が解除されたことで、県内外から観光客や修学旅行客が増加し、増収に繋がった。(飲食・物販)
- 普通
少し回復したがコロナ前には程遠い感じです。(その他業種)
- やや悪い
利用者が増加傾向にある施設もあるが、体験施設などはいまだコロナ感染症の影響からか例年通りとまではならず伸び悩んでいるため。(行政・協会)
- 悪い
新型コロナウイルスの影響が大きく、人の動きが鈍い。(集客施設)
- 悪い
主要業務である、団体旅行の需要がない(学校関係除く)。(交通・代理店)

3. 7～9月期に比べて10～12月の動向、景況感

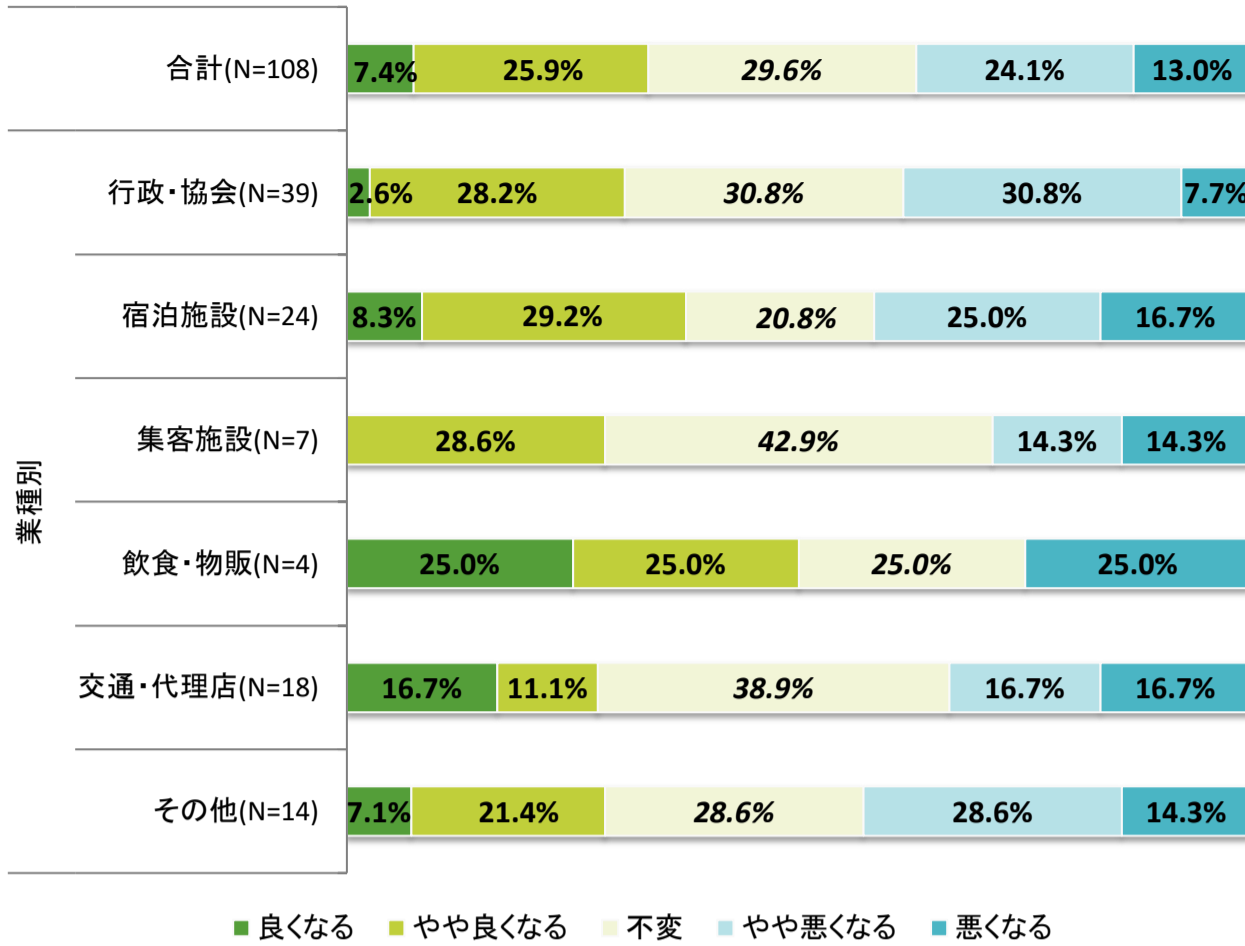


7～9月期に比べて10～12月の動向・景況感は、全体で「良くなった」と「やや良くなった」の合計は85.2%であった。また、「悪くなった」と「やや悪くなった」の合計は全体では4.7%となったが、集客施設では42.9%であった。

【コメントの抜粋】

- 良くなった
人流の増加による宿泊客の増加。(行政・協会)
- やや良くなった
修学旅行が実施されているため。(交通・代理店)
- 不変
お取引先からの受注が微増。(飲食・物販)
- 悪くなった
助成制度が再開した後は、確実に良くなってきています。ですがGoToほどの爆発力はない。(宿泊施設)
- 悪くなった
コロナ前より悪い状況だが、感染状況の沈静化、再発見の旅の効果等もあり回復基調だといえる。(集客施設)
- 悪くなった
令和2年豪雨災害後、休業の為比較できず。(その他業種)
- 悪くなった
自由に旅行するというムードになっていない。(集客施設)
- 悪くなった
昨年の実績と照らし合わせてみてもあまりいいとは言えない。(行政・協会)
- 悪くなった
豪雨災害を受けて、全施設での営業が再開出来ていない。(集客施設)

4. 今後、2022年3月までの業況の見通し【見通しDI】



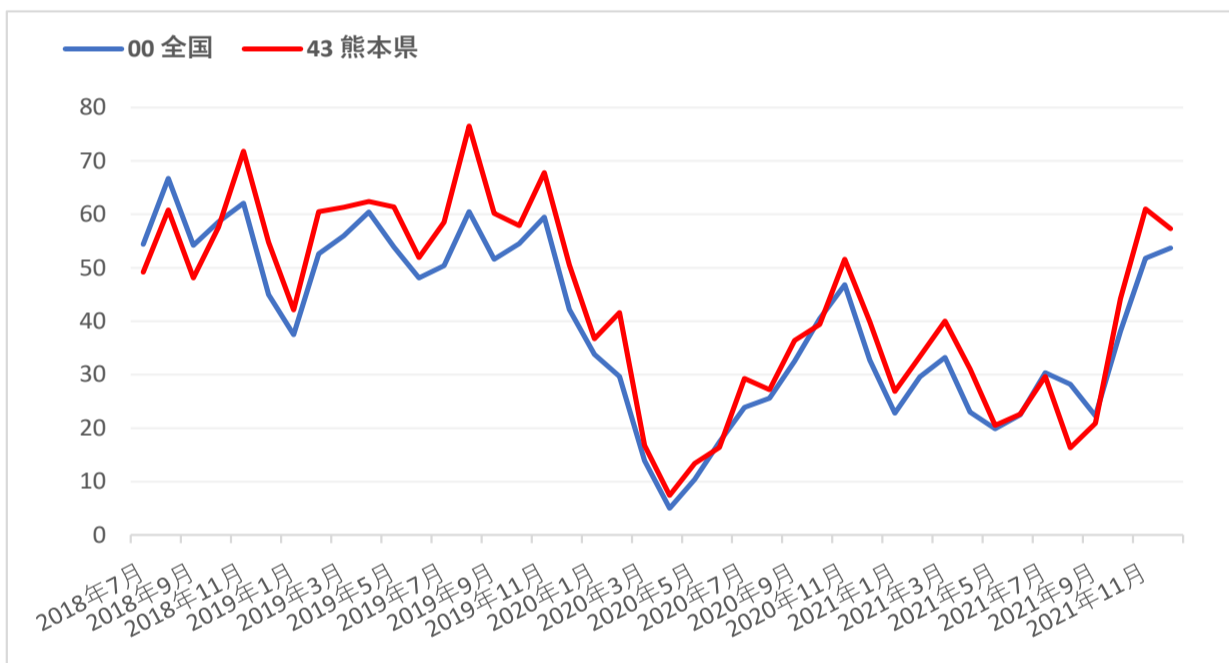
今後3月までの業況の見通しは、全体で「良くなる」と「やや良くなる」の合計は33.3%、「悪くなる」と「やや悪くなる」の合計は37.1%となっている。「良くなる」との回答は、「新型コロナの小康状態を保てれば」とする回答が多かった。回収期間中に新型コロナの感染状況は大幅に変わったため、回答時の状況により見通しは変化したと思われる。

【コメントの抜粋】

- 良くなる
コロナ第6波の状況にもよるが、このままいけば良くなると期待。(交通・代理店)
- やや良くなる
新たにオミクロン株が出てはきているが、昨年に比べ、お客様がWITHコロナの中で気をつけながら、生活していくと思われるため。(飲食・物販)
- 不変
国の政策などが示され、コロナの終息感が見えることで、はじめて業況が改善されていくと思われます。(集客施設)
県独自の宿泊助成やGoToキャンペーンが無い状態では、予約数が格段に減少するため。(宿泊施設)
- やや悪くなる
県内でもオミクロン株の感染者数が増えだしていることから、また人の流れが止まり入込客の増加が見込めないため。(行政・協会)
- 悪くなる
コロナ感染拡大第6波の影響で修学旅行の取消などが始まっており、今後ツアー取消等観光需要の減少に広がっていく可能性が高い。(交通・代理店)

5. 宿泊稼働指数の動向

①月次別

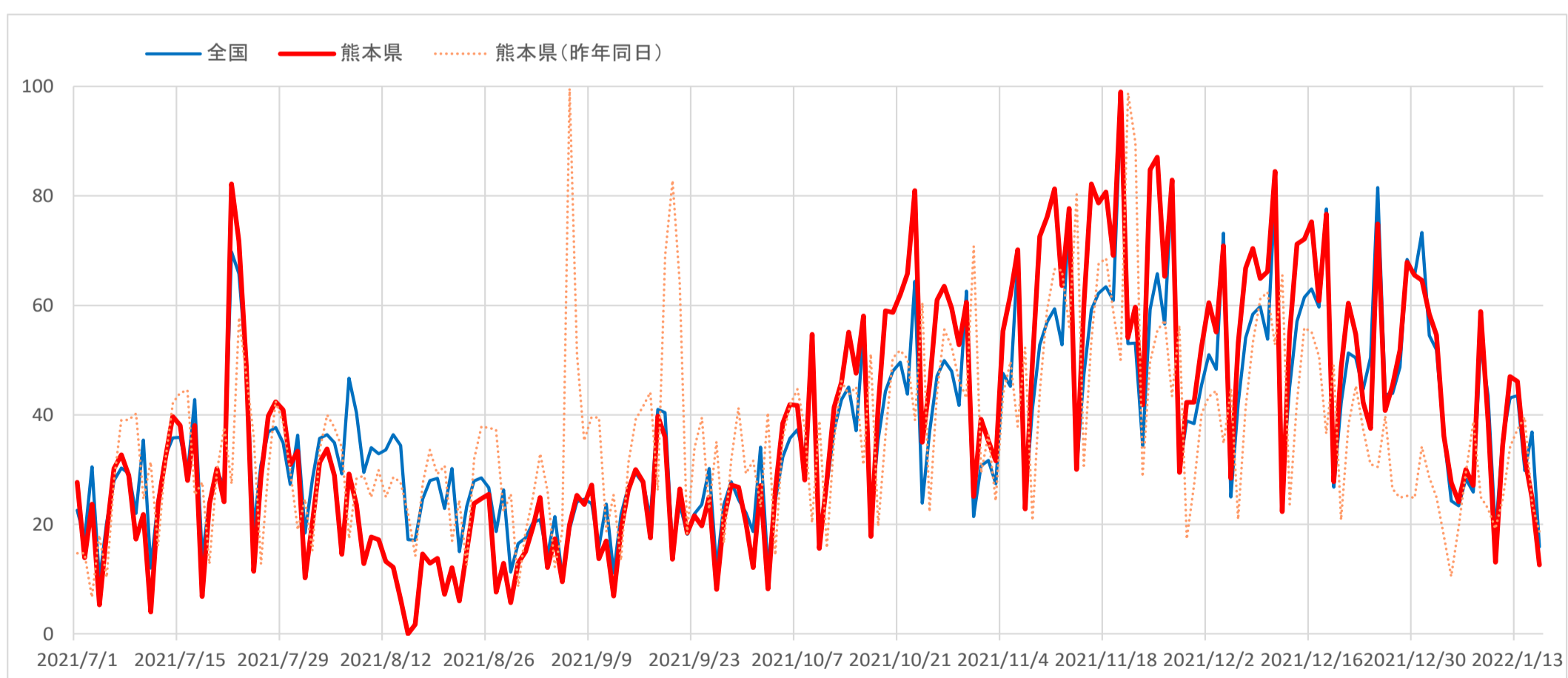


2021年10月における熊本県の宿泊稼働指数は44.2、11月は61.0、12月は57.3となり、11月は2020年以降で最も高くなった。また、10月の前年差は4.8pt、11月は9.4pt、12月は17.4ptとなった。前年の同時期はGotoトラベルキャンペーンが実施されていたが、その時期と比べても高い水準となっている。

9月末に新型コロナウイルスによる緊急事態宣言やまん延防止等重点措置が解除され、全国的に感染状況が小康状態で推移したこと、また「くもと再発見の旅」や各市町村の宿泊キャンペーンによる需要喚起策もあり、稼働の改善傾向が継続した。

エリア別では、水俣、人吉、天草などで稼働指数が高い傾向にある。また熊本市エリアも、指数は未だ低いながらも、10月以降は大きな改善傾向がみられている。

②日次別



宿泊稼働指数を日次別(原数値)で見ると、緊急事態宣言・まん延防止等重点措置が9月末で解除され感染状況も小康状態となったことから、10月に入り徐々に改善傾向となり、11月には週末は毎週70ptを上回る稼働となった。特に11/20(土)には2021年で最も高い99ptとなった。その後も年末までは比較的高い水準を継続した。

休日(土曜日)の稼働が良いことに加え、平日も底上げされてきている。県民割等の宿泊需要の後押しや、業務出張などの需要も一部回復してきていることが要因とみられる。

ただし、足元では指数の下落傾向が顕著となっており、Go Toトラベルキャンペーンが停止となった昨年並みの水準となっている。季節変動の要因もある一方、オミクロン株感染拡大による旅行自粛の影響も強いと考えられる。

用語解説

※DI(ディフュージョン・インデックス)

同調査におけるDIは、現在の景況感(現状判断)、現在と比べた3ヶ月後の見通し(先行き判断)に対する5段階の判断に、それぞれ点数を与え、これらの回答区分の構成比(%)を乗じたものである。(良い…+1、やや良い…+0.75、変わらない…+0.5、やや悪い…+0.25、悪い…0)。DIが50を超えた場合、景気が上向いていることを示す。

※宿泊稼働指数

宿泊稼働指数は日次の空室の水準を指数化したもので、(公財)九州経済調査協会が推計・公表。原数値は0から100の間の数値をとり、稼働状況が良い場合は100に、稼働状況が悪い場合は0に近づく。なお、2020年4～6月分については、緊急事態宣言による休業が多く発生していたことから、同期間に営業していた施設のみを分析対象としている。

具体的には、以下の式より算出している。

$$100 - \left(\left(\text{当日の空室数} - \text{当日を含む過去730日の最小空室数} \right) / \left(\text{当日を含む過去730日の最大空室数} - \text{当日を含む過去730日の最小空室数} \right) * 100 \right)$$

本稿では、①月次別では、日次(原数値)データを7日間周期のデータとみなして要因分解し、曜日要因を除いたものを単純平均したもの、②日次別では原数値を使用している。